

超高齢社会の生涯学習の在り方を考える

生涯学習とまちづくり

～地域活動に生かす生涯学習
生涯学習が生きる自治の現場～

2011. 11. 2

三鷹市長
清原慶子



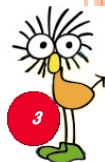
三鷹の森 ジブリ美術館

1. 三鷹市の位置と概況

- ・市制施行日：昭和25年11月3日（市制施行61周年）
- ・面積：16.5 km² ・人口：約18万人 ・世帯：約8万7千世帯
- ・新宿から約15km ・JR中央線で新宿から15分
- ・東京23区に隣接する勤労者が多い住宅都市
- ・一般会計予算：649億8千万円（2011年度当初） 地方交付税の不交付団体
- ・平成22年実施国勢調査：生産年齢人口は69.7%（全国の市町村で第10位）



都立井の頭恩賜公園



太宰治文学サロン

太宰治晩年の地

2008年：没後60年
2009年：生誕百年



山本有三記念館



三鷹市

山本有三記念館

山本有三記念館は、作家山本有三が昭和11年から21年まで住んだ洋風建築の家（天正15年築）です。



三鷹市立アニメーション美術館

〈三鷹の森ジブリ美術館：館主；宮崎駿監督〉



2. 超高齢社会の生涯学習を考える視点

- 人生100年時代の到来
 - 健康で、自立的にくらすことの保障
- 高学歴化の進展による自己実現意欲の顕在化
 - 生涯にわたって「地域」での居場所と自己実現でき、達成感と誇りある「活動」を得ることが必要
- ◎地域における多様な「活動」とそれを支える「生涯学習」を結びつける条件整備と支援が有用



3. 三鷹市の生涯学習推進計画

- (1) 現行の『みたか生涯学習プラン2010』
(平成17年度～平成22年度)
- 市民が「いつでも、どこでも、だれでも、そして、いつまでも」学ぶことができる社会を目指す
- 市民等との協働による生涯学習の推進
- 三鷹ネットワーク大学の設立
エコミュージアム事業の推進
統合型地域スポーツクラブの設置など



(2) 『みたか生涯学習プラン2022(仮称)』 (平成23年度～平成34年度)を策定中

- ともに学び、学びを活かし、学びの成果や絆が地域に受け継がれていく心豊かな社会をつくる
- 市民との協働による生涯学習の推進
- 市民が自ら学習したことを地域に返す
「学びの循環」や人のつながりの創出



4. 生涯学習センターである社会教育会館 における学習者主体による生涯学習

- 市民大学総合コース
→市民と職員の協働で構成された「企画委員会」が講座のテーマや講師を選定
→受講者平均年齢 61.4歳
// 最高齢者 89歳
- むらさき学苑 (60歳以上の高齢者対象)
→受講者平均年齢 75.2歳
// 最高齢者 94歳



5. 三鷹ネットワーク大学が進める協働

国際基督教大学、杏林大学、国立天文台をはじめとする三鷹市内の法人に加えて、立教大学、法政大学、明治大学等の市外の大学を含む18の教育・研究機関と三鷹市がNPO法人を設立して運営している(平成17年10月開設)

「地域の新しい大学」をめざす「民学産公」協働の取り組み

正会員	賛助会員	合計
19団体	74団体	93団体

◆正会員 教育・研究機関と三鷹市
アジア・アフリカ文化財団／亜細亜大学／杏林大学／国際基督教大学／国立天文台／首都大学東京／電気通信大学／東京学芸大学／東京工科大学／東京女子大学／東京農工大学／日商簿記三鷹福祉専門学校／日本獣医生命科学大学／日本女子体育大学／法政大学／明治大学／立教大学／ルーテル学院大学／三鷹市 (合計19団体)

◆賛助会員のうちわけ	
企業	31
独立行政法人	3
NPO法人	12
大学	6
財団法人	3
社団法人	5
その他の法人	4
任意団体	8
個人	2
合計	74

(H23年9月30日現在)



三鷹ネットワーク大学の機能

教育・研究機関の地域への開放と、地域社会における知的ニーズを融合し、民学産公の協働による新しい形の「地域の大学」をめざす・・・

「知の共有の場」としての三鷹ネットワーク大学

事業項目	平成22年度での事業例
(1)教育・学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ●「太宰を読む百夜・百冊」 ●「星のソムリエみたか・星空案内人」養成講座 ●「お母さんのための算数教室」
(2)研究・開発機能	<ul style="list-style-type: none"> ●「民学産公」協働研究事業 ●SOHOベンチャーカレッジの開催 ●まちづくり総合研究所事業 ●教師力養成講座・学校支援者養成講座
(3)窓口・ネットワーク機能	<ul style="list-style-type: none"> ●サロン事業「アストロミーパブ」「パイオカフェ」 ●「三鷹の森 科学文化祭」開催 ●スタンプラリー「みたか太陽系ウォーク」の開催

●受講者登録数
(平成23年9月30日現在)
受講者登録人数 5,930人

男性44.9% 女性54.9%
三鷹市民52.4% 市外47.6%

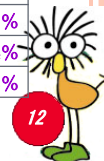
受講登録者の年代	
～20代	16.7%
30代	17.3%
40代	20.6%
50代	16.0%
60代	15.6%
70代～	11.4%
NA	2.3%

●平成22年度講座実績

件数:128件

コマ数:572コマ(1コマ1.5h)

申込総数:11,256人



6. まちづくりの課題である

「都市再生」と「コミュニティの創生」 そして・・・生涯学習

- 「都市再生」：「新川防災公園・多機能複合施設(仮称)」へ社会教育会館・スポーツ施設を統合
- 「コミュニティの創生」：
 - A：地域ケアネットワークづくり
ボランティア養成講座
 - B：参加と協働のまちづくり
まちづくりディスカッション
市民会議・審議会公募委員
 - C：コミュニティ・スクール
 - D：子ども子育て支援



A 地域ケアネットワークづくりと生涯学習

- 医師会、歯科医師会、薬剤師会、民生・児童委員、町会・自治会、社会福祉協議会会員等ボランティアの連携
- 市内7つのコミュニティ住区のうち、すでに4住区で発足
- 市民と市民の相互支援(共助)の実現に向けて求められる能力と生涯学習
- 介護予防、体力づくり等の講習会の実施と「卒業生」の自主グループ化



A 地域ケアネットワークづくりと生涯学習

(1) 傾聴ボランティア養成

三鷹市社会福祉協議会委託事業

H18年度～現在まで156人を養成、

施設や個人、各ケアネットのサロン等へ派遣

H22年度派遣実績延べ1,332人

(2) 地域福祉ファシリテーター養成

三鷹市・武蔵野市・小金井市の3市と3市社会福祉協議会、ルーテル学院大学の協働事業

H21年度～現在まで三鷹市は47人を養成

各ケアネットや地域の課題の解決に取り組む



A 地域ケアネットワークづくりと生涯学習

(3) 認知症サポーター養成

市民や市職員対象の市主催講座の他、様々な団体へ講師を派遣する出前講座を開催

H18年度～現在まで2,150人養成。

同時にサポーター養成講座の講師となる「認知症キャラバンメイト」を養成、及び東京都に派遣養成

H18年度～現在まで50人を養成。

→福祉人財の育成とその活動を支援し、今後、地域ケアネットワークを全市展開していく



B 参加と協働のまちづくりと生涯学習

(1) 無作為抽出の市民による話し合い 「みたかまちづくりディスカッション」

- 2006年 「子どもの安全安心」をテーマに
青年会議所とパートナーシップ協定を締結して協働実施
(1日目に52人、2日目は51人が参加)
- 2007年 第3次三鷹市基本計画第2次改定のため
市が責任主体として、公募市民を入れた実行委員会を設置
(1日目に47人、2日目は49人が参加)
- 2008年 外環道計画における中央ジャンクション三鷹地区検討会
国・都・市の三者による共同開催
(4日間で89人、76人、67人が参加)



B 参加と協働のまちづくりと生涯学習

●まちづくりディスカッションを 市民コーディネーターが自律的に運営

- 2011年2月～3月
市民参加の主体的な担い手となる人材
の育成を目的として「市民コーディネーター養成講座」を実施。
講座修了者40人には修了証を交付。



- 2011年7月
NPO法人みたか市民協働ネットワークをパートナーとして、協定
を締結。同時に養成講座修了者を中心として実行委員会設置。

- 2011年10月29日、30日
新たな総合計画（第4次基本計画）を策定する過程において、
市民自身の主体的な運営による市民参加の取り組みを実現。
(2日間開催で参加は両日とも約100人)



B 参加と協働のまちづくりと生涯学習

(2) 無作為抽出の市民を委員とする市民 会議・審議会

- 公募枠を設けている約30の市民会議・審議会について、無作為抽出で市民委員候補者名簿への登録を依頼。
- 18歳以上の市民1,000人に依頼。2週間の回答期限内に111人から同意を得た。

(3) 基本計画等の策定に向けた「まち歩きワークショップ」の実践



- 参加者である市民が、職員と共に実際にまちを歩き、ワークショップを行って地域の課題と、その解決に向けた方向性を話し合った。



- 2010年9月から12月にかけて各住区、4日間の日程で実施。
参加した市民は7つある全住区で約542人



C コミュニティスクールと生涯学習

- (1) 「コミュニティスクール型の小中一貫教育」を推進するコミュニティスクール委員会委員の活動
- (2) 授業支援、クラブ支援をするNPO法人や市民ボランティア
- (3) 地域子どもクラブ（放課後の児童の活動支援）ボランティア
- (4) おやじの会、父親の会のキャンプ指導等の活動



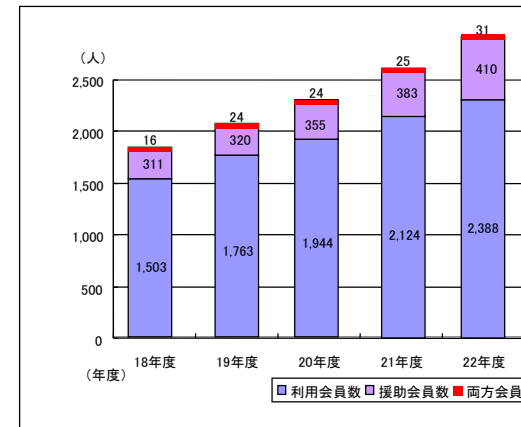
D 子ども子育て支援と生涯学習

- (1) 青少年対策地区委員会 (全小学校区)
- (2) 交通安全対策地区委員会 (全小学校区)
- (3) 青少年委員、補導連絡員
- (4) 子ども会
- (5) 児童館ボランティア
- (6) ファミリーサポート
- (7) 要保護児童対策地域協議会



在宅子育て支援：
子育てサポーター養成講座事業

共助の仕組み



- ・会員の拡充、スキルの向上
- ・男性会員（育メン・育爺）の拡充
- ・対応するサービスメニューの拡充
- 出前型親子ひろば
- 訪問型障がい児保育
- 訪問型病児保育

※ほのぼのネット、NPO、ハピネスセンター、医師会等との連携

■ファミリー・サポート・センター会員状況



7. 若い時からの取り組みの重要性

- 小中学生のころから、人生100年時代のキャリアデザインに、地域活動や生涯学習が位置づけられるように
- どの世代においても、学校教育及び職業以外に自分の社会的役割を認識する機会があるように
- 帰属する居場所があり、自分の存在が地域等で期待される事と生涯学習は関連
- もちろん強制ではなく、自発性の尊重は前提



超高齢社会の生涯学習の在り方を考える

生涯学習とまちづくり

- 地域活動に生かす生涯学習
- 生涯学習が生きる地域活動

そして、地域は

共助、協働、自治の現場

ご清聴ありがとうございました